「天皇即位礼正殿の儀」日本の地上放送局はどのように伝えたか

大　墻　　敦

桜美林大学ビジネスマネジメント学群

The research about what and how the Japanese terrestrial broadcasters reported "the Imperial Enthronement Ceremony"

OGAKI Atsushi

College of Business Management, J. F. Oberlin University

キーワード：天皇即位礼正殿の儀、地上放送局、象徴天皇制
議題設定機能、メディア

（要約）

令和元年（2019年）10月22日、天皇が即位を内外に宣言する「天皇即位礼正殿の儀」がおこなわれ、早朝から深夜まで日本の地上放送局は「天皇即位礼正殿の儀に関連するニュース・情報番組」（以下、「即位礼・関連番組」）を放送した。NHK、日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ（チャンネル順）による「即位礼・関連番組」は41番組、その放送時間はNHKが12時間28分、日本テレビが9時間11分、テレビ朝日が12時間33分、TBSが15時間56分、テレビ東京が1時間9分、フジテレビが9時間58分、総計61時間15分であった。「即位礼・関連番組」内における即位礼に関連する情報（以下、「即位礼・関連情報」）の分量は総計46時間12分に達した。調査対象41の「即位礼・関連番組」の内27で50%を超える比率で即位礼に関連する情報が放送されたことなどから、高い優先度と重要度で「即位礼・関連情報」が国民に伝えられたことが明らかになった。赤坂御所と皇居の間の天皇皇后両陛下の移動、賢所大前の儀、天皇即位礼正殿の儀、饗宴の儀を中継し、儀式の歴史的文化的説明を、VTR取材やコンピューターグラフィックス（以下CG）、スタジオ演出を工夫して分かりやすく詳細に視聴者に伝えた。当日は台風19号による被害が各地で発生し、さらに台

風 20 号が上陸の恐れもあることから気象情報を適宜織り交ぜるなど視聴者ニーズに応える工夫と被災地の人たちに寄り添う姿勢が見えた。
　筆者の問題意識は、日本の放送局が、メディアの機能とされる「国民の知る権利への奉仕（議題設定機能、世論認知機能）」を果たしていたかどうか、具体的には象徴天皇制の課題や皇室の将来像について議題を設定し世論の認知を高めていたか、であった。今回の独自調査結果から、議題設定機能や世論認知機能が十全に果たされていたとは言い難く、多様な視点からの報道の確立への課題が残ることが明らかになった。

1. はじめに

平成 28 年（2016 年）8 月、明仁天皇が国民へ向けたビデオメッセージで退位の意向を示し、さまざまな議論の結果、2017 年 6 月に成立した陛下一代限りの特例法により、明仁天皇は 2019 年 4 月 30 日をもって退位し上皇となった。翌 5 月 1 日に、剣璽等承継の儀、即位後朝見の儀がおこなわれ、新天皇（徳仁）が即位し、令和元年（2019 年）10 月 22 日、徳仁天皇の即位礼正殿の儀が行われ国内外に即位を宣明、国民の祝日となった。外務省によると海外からは 180 を超える国と地域、国際機関の代表らが参列し、世界各国の報道関係者が取材のために集まった。日本の地上放送局は中継の体制を整え、即位礼正殿の儀を国民に速やかに正確に伝える役割を果たすことを目指し、ほぼ丸一日かけてニュース・情報番組で放送を続けた。

本研究の目的は、即位礼正殿の儀、象徴天皇制について国内の地上放送局がどのような視点で何をどこまで深く伝えたのかを明らかにし、メディアの機能とされる「国民の知る権利への奉仕（議題設定機能、世論認知機能）」を果たしていたかどうか、視点の多様性があったのかを探求することにある。筆者は 1986 年から 2019 年まで、NHK（日本放送協会）で放送番組の製作、NHK 放送文化研究所（以下、文研と表記）でメディア研究に従事した。本研究調査は、文研［2016］『「戦後 70 年報道」海外のテレビはどう伝えたか〜中国・台湾・韓国・アメリカ・イギリス〜』、文研［2016］『安全保障関連法案　テレビ報道の分析』に触発され始まった。

皇室への敬称・敬語については、各報道機関のガイドブックなどを参考に、天皇は「陛下」、他の皇族には「さま」をつける、天皇・皇后お二方の場合は「両陛下」、二重敬語を避ける、などとした。また、番組出演者などの敬称は省略した。

2. 即位礼に関する基本情報

当日の主な日程は、宮内庁・天皇皇后両陛下の令和御大礼時の御日程について、から下

記のとおりである。令和元年 9 月 18 日に内閣総理大臣決定された儀式の細目に関する情報はすべて事前発表されていた。

早朝	天皇皇后両陛下が赤坂御所を出発し皇居へ移動
午前 9 時	賢所大前の儀
午後 1 時	天皇即位礼正殿の儀　終了後・天皇皇后両陛下が皇居を出発し赤坂御所へ移動
	夕刻・天皇皇后両陛下が赤坂御所を出発し皇居へ移動
午後 7 時 20 分	饗宴の儀、終了後・天皇皇后両陛下が皇居を出発し赤坂御所へ移動

3. 研究の方法

全チャンネル同時録画機で、10 月 22 日の午前 0 時から 24 時まで（一部、翌 23 日零時以降の放送を含む）に、NHK（総合)、日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビが放送したニュース番組、情報番組（通称ワイドショーを含む)、即位礼に関連する特集番組など「即位礼・関連番組」を全て収録し、その放送時間、出演者、内容、演出などを書きだした一覧表を作成し分析の基礎とした。

表 1　「即位礼・関連番組」の内容 ·NHK の一部分

10月22日	開始時間	放送尺	項目	肩書き	氏名	演出	内容
生活情報	09:13:28	00:00:00	天皇陛下宮中三殿で儀式	NHK記者　社会部	横井　悠	VTR再生	儀式について解説、拝礼、お告げ文を読み上げる
生活情報	09:13:28	00:05:52	天皇陛下宮中三殿で儀式	天皇陛下の友人	立花　眞	スタジオ	感想、子ども時代の天皇陛下について
生活情報	09:17:28	00:01:52	天皇陛下が退出、儀式終了	アナウンサー	和久田麻由子、高瀬耕造		賢所での儀式の説明
生活情報	09:19:20	00:06:00	即位から半年　天皇皇后両陛下は			VTR	即位から半年の様子のまとめ、宮中祭祀、国賓（トランプ大統領夫妻）の接遇、通訳なし、16年ぶりにすべての宮中行事に参加した皇后、愛知県訪問、全国植樹祭、各地への訪問、全国戦没者慰霊式、上皇の言葉をほぼ受け継いだ、平和への思い、被災者によせる思いも引き継いだ、国体開会式、台風19号の被害に心を痛め復旧への願い、宮内庁を通じて、哀悼の気持ち、お見舞いの気持ち
生活情報	09:25:20	00:04:00	戦没者の遺族は	NHK沖縄	土橋　大記	中継（沖縄　糸満）	5回ここを訪れた、沖縄県遺族連合会　宮城篤正会長
生活情報	09:29:20	00:03:55	震災の被災地は	NHK仙台	石井かおる	中継（宮城　名取　閖上地区）	津波の高さと同じモニュメント、天皇皇后ご夫妻が訪れた、ご夫妻の歌を紹介、歌碑の字を書いた高校生　高橋瑠奈さん、両陛下と懇談　伊東明さん(被災者)

出演者の欄には、出演者の氏名と肩書きを記し、「司会進行役」「記者・レポーター」「視聴者代表・タレント」「専門家・識者」「その他」で分類した。「記者・レポーター」とは、放送局の職員・社員やフリーランスなどの立場の違いに関わらず取材活動をしている者、「専門家・識者」とは即位礼および象徴天皇制の課題に関して専門的な見地から発言した

者とした。内容の欄には、画面に表示された「ニュース項目・小見出しテロップ」の文字起こしを記した。ナレーションの内容に関してはキーワードや項目を書きだした。演出に関してはスタジオでのトーク、実物や模型での説明、VTR、CG、パターン、テロップ、新聞記事紹介、ゲストトーク、ディスカッションなどの言葉を用いて分類、記述した。
表 2 では、編成表に基づき「即位礼・関連番組」の開始時間と終了時間を書き記し放送時間を記録し、「即位礼・関連情報」の時間を書き記した。

表２　「即位礼・関連番組」と「即位礼・関連情報」、課題・議題提起に関する調査一覧

							課題・議題の提起（「企画」）						
NHK	開始時間	終了時間	放送時間	関連番組・総放送時間	関連番組・放送時間（概算）	関連情報比率（概算）	象徴天皇制	政教分離	儀式の経費	公務	皇族の減少	女性天皇・宮家の創設	恩赦
ニュース（午前0時18分）	0:18	0:21	0:03		0:00	0%	×	×	×	×	×	×	×
ニュース（午前2時55分）	2:55	2:58	0:03		0:01	33%	×	×	×	×	×	×	×
ニュース（午前6時00分）	6:00	6:20	0:20		0:01	8%	×	×	×	×	×	×	×
ニュース（午前6時55分）関東甲信越	6:55	6:59	0:04		0:00	18%	×	×	×	×	×	×	×
おはよう日本（午前7時00分）	7:00	7:45	0:45		0:35	78%	×	△	×	×	×	×	×
ニュース（午前8時00分）即位の礼	8:00	11:59	3:59		3:55	98%	△	△	×	△	△	△	△
ニュース（午後00時45分）即位の礼	12:45	15:00	2:15		2:10	96%	△	△	×	△	△	△	△
ニュース（午後3時00分）即位の礼	15:00	17:00	2:00		2:00	100%	×	×	×	×	×	×	×
ニュース（午後5時00分）即位の礼	17:00	18:00	1:00		1:00	100%	△	△	×	×	×	×	×
ニュース（午後7時00分）	19:00	19:59	0:59		0:46	78%	×	×	×	×	×	×	×
News Watch 9（午後21時00分）	21:00	22:00	1:00		0:55	92%	△	×	×	△	×	×	×
				12:28	11:24	91%							
日本テレビ	開始時間	終了時間	放送時間	関連番組・総放送時間	関連番組・放送時間（概算）	関連情報比率（概算）	象徴天皇制	政教分離	儀式の経費	公務	皇族の減少	女性天皇・宮家の創設	恩赦
おはようOha!4（午前4時分）	4:00	5:50	1:50		0:08	6%	×	×	×	×	×	×	×
スッキリ（午前8時）（参考情報）	8:00	10:20	2:20		1:40	59%							
NNNストレイトニュース（午前11時30分）	11:30	11:42	0:12		0:06	41%	×	×	×	×	×	×	×
every（午前11時55分）	11:55	13:55	2:00		1:55	79%	△	△	×	△	△	×	×
every（午前15時50分）	15:50	16:35	0:45		0:45	82%	×	×	×	×	×	×	×
every（午後4時50分）	16:50	17:58	1:08		0:16	19%	×	×	×	×	×	×	×
News Zero（10月23日午前0時10分）	0:10	1:06	0:56		0:54	79%	×	×	×	×	×	×	×
				9:11	5:44	51%							
テレビ朝日	開始時間	終了時間	放送時間	関連番組・総放送時間	関連番組・放送時間（概算）	関連情報比率（概算）	象徴天皇制	政教分離	儀式の経費	公務	皇族の減少	女性天皇・宮家の創設	恩赦
グッドモーニング（午前4時55分）	4:55	8:00	3:05		0:30	13%	×	×	×	×	×	×	×
大下容子（午前10時25分）	10:25	11:42	1:17		1:15	80%	△	△	×	△	△	×	×
ANNニュース（午前11時45分）	11:45	12:00	0:15		0:07	38%	×	×	×	×	×	×	×
大下容子（12時00分）	12:00	16:50	4:50		4:30	76%	△	△	×	△	△	×	×
スーパーJチャンネル（午後4時50分）	16:50	18:58	2:08		1:30	58%	×	×	×	×	×	×	×
報道ステーション（午後10時00分）	22:00	22:58	0:58		0:35	49%	○	×	×	×	○	○	○
				12:33	8:27	55%							
TBS NEWS	開始時間	終了時間	放送時間	関連番組・総放送時間	関連番組・放送時間（概算）	関連情報比率（概算）	象徴天皇制	政教分離	儀式の経費	公務	皇族の減少	女性天皇・宮家の創設	恩赦
ニュース（午前3時45分）	3:45	4:00	0:15		0:07	38%	×	×	×	×	×	×	×
ニュース（午前3時45分）	4:03	5:25	1:22		0:07	7%	×	×	×	×	×	×	×
あさチャン（午前5時25分）	5:25	8:00	2:35		2:00	63%	×	×	×	×	×	×	×
グッとラック!（午前8時00分）	8:00	10:25	2:25		2:20	79%	△	△	×	△	△	△	○
ひるおび（午前10時25分）	10:25	11:27	1:02		0:58	77%	×	×	×	×	×	×	×
TBS NEWS（午前11時30分）	11:30	11:51	0:21		0:07	27%	×	×	×	×	×	×	×
ひるおび（午前11時55分）	11:55	13:53	1:58		1:20	56%	△	△	×	△	△	×	×
ごごすま（午後1時55）	13:55	15:49	1:54		1:50	79%	×	×	×	×	×	×	×
Nスタ（午後3時49分）	15:49	18:59	3:10		2:30	65%	×	×	×	×	×	×	×
news23（午後11時）	23:00	23:54	0:54		0:40	61%	×	×	×	×	×	×	×
				15:56	11:59	62%							
テレビ東京	開始時間	終了時間	放送時間	関連番組・総放送時間	関連番組・総放送時間	関連情報比率（概算）	象徴天皇制	政教分離	儀式の経費	公務	皇族の減少	女性天皇・宮家の創設	恩赦
TOKYO MX NEWS（午後00時50分）即位の礼	12:50	13:59	1:09		1:09	100%	×	×	×	×	×	×	×
				1:09	1:09								
フジテレビ	開始時間	終了時間	放送時間	関連番組・総放送時間	関連番組・放送時間（概算）	関連情報比率（概算）	象徴天皇制	政教分離	儀式の経費	公務	皇族の減少	女性天皇・宮家の創設	恩赦
めざましテレビ（午前5時25分）	5:25	8:00	2:35		1:00	32%	×	×	×	×	×	×	×
NEWS FNN（午前11時30分）	11:30	11:55	0:25		0:18	59%	×	×	×	×	×	×	×
バイキング（午前11時55分）	11:55	13:44	1:49		1:45	79%	△	△	×	△	△	×	×
直撃LIVE　グッディ（午後１時45分）	13:45	15:50	2:05		1:35	62%	△	△	×	△	△	×	×
Live News（午後3時50分）	15:50	17:51	2:01		2:01	82%	×	×	×	×	×	×	×
Live News（午後5時53分）	17:53	18:56	1:03		0:50	65%	×	×	×	×	×	×	×
				9:58	7:29	62%							

「即位礼・関連番組」のなかで、象徴天皇制、政教分離、儀式の経費、公務、皇族の減少、女性天皇･宮家の創設、恩赦に関して議題設定機能を果たす企画があれば○、無ければ×、明確に有無が判断できない場合は△を記した。「企画」とは、司会者が「ここからは、○○をテーマに番組を進めます」などの枠提示をして3分から5分以上の時間をかけて「国民の知る権利への奉仕（議題設定機能、世論認知機能）」の役割を番組製作者が果たそうとしていると、筆者が明確に感じたものを指す。

4. 研究成果

ⅰ　概要

VTR、スタジオ、CG、模型、図（パターンやフリップと呼ばれる手持ちのボードや大型のパネルなど）を使用して、分かりやすく伝えるための工夫はあったが、各局の報道内容にはほとんど差がないことが判明した。以下､各放送局に共通する報道内容を列挙する。

◆22日の天皇皇后両陛下のスケジュール説明　赤坂御所を出発､皇居に到着､9時から「賢所大前の儀」、午後1時15分から「即位礼正殿の儀」、皇居を出発、赤坂御所に到着、赤坂御所を出発、皇居に到着、午後7時20分から「饗宴の儀」、皇居を出発、赤坂御所に到着

◆「賢所大前の儀」の説明　祖先（天照大神）の霊への報告、宮中三殿の説明、天皇の衣装、黄櫨染御袍、皇后の衣装、白い十二単が15Kg、しきたり、参列者について

◆「即位礼正殿の儀」の説明　儀式の段取り、正殿松の間、高御座（京都御所で保管、分解して輸送して組み立て、LED照明器具を設置）、御帳台、三種の神器（勾玉、国璽、御璽）、衣装について（天皇のみが着る黄櫨染御袍、純白の十二単）、持ち物について（束帯、尺、冠、ティアラ）、中庭にのぼり旗、安倍首相の揮毫、束帯姿の威儀（雨のため雨儀に変更、80人を27人に減らして屋内へ）、天皇の移動ルートの変更（高御座の後ろから入り登場）、皇族の並び方が変更（男性皇族減少、秋篠宮とほかの皇族で分かれて配置）、平安時代に始まり江戸時代には中国の影響を受けた、明治以降は西洋近代国家の影響を受けて変化したこと（例、御帳台に皇后がのぼる）、天皇の言葉、安倍総理大臣の寿詞、万歳三唱、祝砲

◆来日した賓客について　チャールズ皇太子（英）、ブータン国王夫妻、アレキサンダー国王と王妃（和蘭）、サルコジ元大統領（仏）、アウン・サン・スー・チー国家最高顧問（ミャンマー）、王岐山国家副主席（中国）、イ・ナギョン国務総理（韓国）、春秋の間に大型モニターを複数台設置

◆「饗宴の儀」の説明　来賓について、料理の内容、前回との比較（4日間連続7回3,400人が、4日で2,600人、立食形式、簡素化）

◆皇族・車列中継　ヘリコプター、上空からの映像、皇居前広場からの報告、赤坂御所から皇居までのルートに10数台の中継カメラを設置、天皇皇后・秋篠宮夫妻が乗車した

移動車を中継し記者やアナウンサーが報告、宮内庁からの報告
◆海外メディア　IBC（国際報道センター）から海外メディアの報道内容について報告
◆平成2年の明仁天皇の即位礼の映像
◆即位後朝見の儀（5月1日）の映像
◆天皇皇后両陛下の人生
徳仁親王については、誕生、初めて両親とともに育つ、兄弟、イギリス留学、水問題で国連の会議で講演。雅子妃については、小和田家の長女として誕生、モスクワ、アメリカ、日本で教育を受けハーバード大学を卒業して外務省で勤務。他に二人の出会いから婚約、結婚、パレード、記者会見、第1子の愛子さまの誕生、適応障害と治療、天皇即位、記者会見、公務への取り組み（国体、被災地訪問）について
◆秋篠宮一家　一家の移動（赤坂御所、皇居）、衣装について
◆警察が特別体制　全国から警官が2万6,000人集合、特別派遣部隊、都内での大規模な交通規制について、午前5時台に首都高速道路でトレーラー事故発生しかしテロではない

上記の情報を「即位礼／共通・報道情報」「皇族・車列中継」と表記しつつ、「企画」の有無と内容について以下、記述していく。

ⅱ　NHK（総合、1チャンネル）

午前0時18分、午前2時55分の全国ニュースでは伝えなかったが、午前6時の全国ニュースで台風19号関連の気象情報のあと「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。午前6時55分の関東甲信越向けニュースでは「皇居の近く　首都高のトンネル内でトレーラー事故」の発生を伝えいち早く「テロの可能性はなし」と報道した。午前7時『おはよう日本』ニュースでは特設スタジオに、NHKアナウンサーが司会、NHK社会部記者が解説、宮崎美子（女優）、宮廷文化を研究する吉野健一（京都府文化財保護課）をゲストに、「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を報道した。午前8時からは司会者が替わり、NHK社会部、国際部、政治部の記者、河西秀哉（象徴天皇制を研究　名古屋大学准教授）、所功（京都産業大学名誉教授）、立花眞（天皇陛下の友人　幼稚園から中学まで学習院でともに学ぶ）、坂下千里子（タレント）をゲストに11時55分まで特別報道番組で「即位礼／共通・報道情報」を報道した。東日本大震災の被災地の福島、宮城・名取閖上地区、台風の被災地である仙台、第二次世界大戦で国内唯一の地上戦を経験した沖縄から中継での報告があった。スタジオでは、ネットワーク報道部の記者がインターネット上の反響について報告した。午前10時に賢所大前の儀が始まると「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。この時間帯は常時、L字で「台風豪雨関連情報」「生活情報」を表示していた。国際部の記者が外交について、社会部の記者が宮内庁の情報、政治部の記者が安定的な皇位継承にむけての安倍政権の取り組みなどを解説した。解説を受けて、河西秀哉が「国民的な議論が必要。メディアが伝える、政治が議論するなど、国民の関心を高める必要がある。

象徴とは何か天皇とは何かを我々自身の問題として考える契機とすることが大事。」とコメントし、議題設定機能、世論認知機能を果たしていた。

午後0時45分からは特別番組を編成し、2時間15分にわたり「即位礼正殿の儀」を中継で伝え、佐藤直子（テニスを通じて陛下と交流）、久禮旦雄（京都産業大学・准教授）、坂下千里子（タレント）、河西秀哉をゲストに「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。13時15分からの即位礼正殿の儀はアナウンサーによる影読みで儀式の進行を伝えた。午後2時5分から午後3時までは特集番組『新天皇・新皇后　歩まれる道』を放送した。午後3時からは、同じゲストで番組が進行し「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を伝えた。午後4時からは、NHKスペシャル『日本人と天皇』の再放送。この番組は、平成17年の「皇室典範に関する有識者会議」による報告書に記載された「安定的で望ましい皇位継承のための方策」などを前提に、1）男系による継承は歴代の天皇・皇族男子から必ず男子が誕生することを前提にしていること、2）この条件は、明治典範時代までは維持されていたが、制度上、非嫡出子も皇位継承資格を有することとされていたほか、戦前の皇室においては、社会全般と同様、一般に出生数も多かったこと、3）しかし、国民の倫理意識や女性の社会進出、出産をめぐる社会動向の変化などの変化を見据えて皇位継承の在り方はいかにあるべきかを考察する必要がある、とした内容であった。これまでの議論の経緯をまとめることで、議題設定機能、世論認知機能を果たしていた。

午後5時は「即位礼・関連番組」が続き、君塚直隆（関東学院大学教授）が追加のゲストとなり「即位礼／共通・報道情報」が放送された。午後6時45分からは関東甲信越向けニュースの中で「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を伝えた。午後7時からの『ニュース7』では、この日の動きをまとめた「ふりかえりVTR」で「即位礼／共通・報道情報」、饗宴の儀にむかう天皇皇后両陛下の車列が中継で伝えられた。午後9時からは『News Watch 9』で「即位礼／共通・報道情報」を伝え饗宴の儀の中継も交えて報道した。磯田道史（歴史学者）、君塚直隆がゲストであった。前回の天皇即位礼・正殿の儀に際しておこされた政教分離をめぐる訴訟について、政府の対応、国事行為について記者が解説した。陛下の水問題への取り組みについての「企画」では、「国土の25%が海抜以下のオランダ・アレキサンダー国王との交流、陛下の水問題への取り組み、平成19年に国連水問題の名誉総裁に就任」などと伝えた。この報告を受けて、君塚直隆が「日蘭関係は第二次世界大戦での捕虜虐待問題があり昭和天皇へのアレルギーが長く続いた。1953年と1963年には国賓待遇ができなかった。1971年の明仁皇太子のヨーロッパ歴訪ではアムステルダムで魔法瓶が投げつけられた。上皇陛下の時代になって国賓が来日するようになり、戦後世代である二人がより自由に発展的に関係を築くことができる。」などと述べた。スウェーデンで人気が高いシルビア王妃についての「企画」では「1976年に結婚、ドイツの一般家庭から王室に入り、母が認知症になった経験から認知症患者のデイケア施設を設立、これまで王妃が家族の病気を公表することはなかったが、摂食障害も告白し弱い立場の人たちにメッセージを発した」との報告があった。これを受けて、磯田道史は「親世代

までは戦争の世代。21世紀の課題は水災害など環境問題であり国境を越えて人類の課題に取り組むことを佇まいで示して欲しい。世界平和という言葉を2回高御座で発した。戦争を経験しない天皇は二百数十年ぶりで、戦争が無い時代がくることを切に願いたい。」などと述べた。全体に、議題設定機能、世論認知機能を果たしていた。台風19号に関連する情報、生活情報は、L時で午前から午後、午後から午後まで継続的に表示されていた。

iii　日本テレビ（4チャンネル）

午前4時から始まる情報番組『おはよう Oha!4』で、台風19号に関連する情報、女児不明から一ヶ月、車内に女性遺体、年金制度改革、株価など経済情報、ラグビー日本代表の記者会見を含むスポーツニュースのあと、4時39分から「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。海外ニュースなどを伝えたあと、午前4時55分、5時7分から「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」、エンタメ情報を伝えた。午前8時から10時20分までは『スッキリ』を放送した。加藤浩次（タレント）が司会を担当し、ゲストを迎えて、「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を伝えた。また、ラグビー・ワールド杯の日本代表チームをスタジオに招いて話を聞くコーナーに時間を割いた。午前11時30分からは『NNN ストレート ニュース』の冒頭で「即位礼／共通・報道情報」を伝え、宮内庁前、海外賓客が宿泊するホテルニューオータニ（千代田区）、首都高などから中継を交えて状況報告があった。午前11時55分からは、情報番組『every』が始まり、アナウンサーのほか、所功（京都産業大学）、井上茂男（日本テレビ客員解説委員）、久能靖（皇室ジャーナリスト）などが出演し「即位礼／共通・報道情報」、天皇即位礼正殿の儀の中継を伝えた。午後3時50分から『every』を継続。岸田恭則（皇后陛下の小学校時代恩師）、池上彰（ジャーナリスト）などが出演。「即位礼／共通・報道情報」を、クイズ形式を交えて解説した。池上彰が高御座に関して「前回は自衛隊のヘリコプターで運んだ、爆破予告もあった、天皇制に反対する左翼系団体もいた、最終的にはトラック運搬、厳重な警戒態勢、荷台、ナンバープレートを隠していた」などと解説した。午後4時50分からも「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。翌日23日午前0時10分から『News Zero』で、キャスター、落合陽一（筑波大学准教授）、社会部記者が出演しこの日の動きを振り返り「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。落合陽一は、饗宴の儀に招かれたことから、感想を述べた。衣装に関する内容は「即位礼／共通・報道情報」とほぼ同一内容であった。

iv　テレビ朝日

午前3時45分からニュースで「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。新聞記事紹介のコーナのあと、午前4時55分から『グッドモーニング』で、岸博之（慶應義塾大学院教授）、山下真司（皇室ジャーナリスト）などが「即位礼／共通・報道情報」を解説、「あきる野市から中継、護岸崩れ、住宅崩壊」などの台風情報、「皇族車列・中継」を伝えた。午前10時25分からは『大下容子　ワイドスクランブル』で、太田昌克（共同通信社編集委員）、

犬山紙子（イラストエッセイスト）、末延吉正（ジャーナリスト・東海大学教授）などが解説し「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。午前11時45分から『ANNニュース』で「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。午後0時からは『大下容子　ワイドスクランブル』で、正殿の儀の中継、廣木謙三（政策研究大学院教授）、近重幸哉（皇室ジャーナリスト）、山下真司（皇室ジャーナリスト）による解説で「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。午後4時50分から7時までは『スーパーJチャンネル』で、近重幸哉、山下真司、斉藤智子（朝日新聞皇室担当）などが解説し宮内庁などからの中継を交えて天皇の言葉、「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を伝えた。午後10時から『報道ステーション』で一日を振り返り「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。スタジオゲストであった河西秀哉（名古屋大学准教授）が、天皇のお言葉に関して「平成は『憲法を遵守し』、今回は『憲法にのっとり』と表現された。国会での議論で遵守という表現はハレーションをおこす可能性があるという考えから、世界の平和という言葉が3回でてくるのは平和主義を守っていくことを表している。全体に分かりやすい言葉を選び、誓い、誓います、と区切り耳で聞いてわかりやすい。」と解説し議題設定機能、世論認知機能を果たしていた。また、後藤健次（共同通信・コメンテーター）が「男性皇族が少なくなり皇位継承の議論は待ったなし。国民の世論調査では多くの人たちが女系天皇を認めている。」と、議題設定機能、世論認知機能を果たすコメントをした。スタジオでは恩赦に関する「企画」で、「即位の礼にあわせ恩赦を実施、犯罪被害者やその遺族の心情に配慮し軽微な犯罪などからの復権に限定した。約55万人の見込み、その中に公職選挙法の違反者も含まれた。すべて前例踏襲、恩赦をやめる理由が見つからず、政令の恩赦は最後にするのもいい。」などと解説し、議題設定機能、世論認知機能を果たしていた。

v　TBS（6チャンネル）

午前3時45分、午前4時のニュースのトップで「きょう即位礼」と概要を伝えた。午前4時50分と午前5時2分、午前5時25分に、即位礼、スケジュールについて詳細に伝えた。午前5時25分から『あさチャン』で、通常のニュースのほか、「即位礼／共通・報道情報」「皇族・車列中継」を伝えた。朝刊ヘッドラインでは、英語民間試験を大学4割使わず、習思想　理解度テストを記者に義務づけ、厚労省パワハラ某氏指針案、おたくの祖・吾妻ひでおさん死去、防音つき個室型オフィス駅ナカに、気象情報などを伝えた。午前6時16分には、速報で「皇居周辺で黒煙」と三宅坂から中継で伝えた。午前6時41分、49分に続報。中継（三宅坂）皇居周辺で黒煙の中継を継続しつつ「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を伝えた。午前8時からは情報番組『グッとラック!』で、アナウンサーとキャスターの立川志らく（落語家）、牧島博子（宮内庁担当記者）、高橋智典（弁護士）、伊藤惇夫（政治アナリスト）、江口和郎（学友）、原久美（学友）が「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。恩赦についての「企画」では、スタジオのボードを用いて恩赦について「刑罰が無効になる、約55万人に恩赦で賛否、行政が勝手に司法の決定を変

えてしまうのはいかがなものか」などと説明があり、高橋智典（弁護士）が「今回の恩赦は復権のみ、公職選挙法違反で停止した公民権の復権に法務省は抵抗した。安倍首相は自分の政権で恩赦というシステムを変えることを避けたかったのではないか。背景には伝統文化を重視するコアな支持者への配慮があったのかもしれない。」などとコメントしたうえで、「評価しない53%、評価しない52%、めでたい、時代錯誤だ、犯罪者が恩恵を受けるのはおかしい、天皇の政治利用だ」などの人々の声を伝え、議題設定機能、世論認知機能を果たしていた。午前10時25分からは『ひるおび』で、立川志らく、牧島博子が、八代英輝（国際弁護士）、塚本容子（毎日新聞客員編集委員）とともに、「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。午前11時30分から『TBS NEWS』で司会の恵俊彰（タレント）が、八代英輝（国際弁護士）、原千晶（タレント）、山村武彦（防災システム研究所所長）、気象予報士などとともに台風被害について、あきる野市の被災現場から中継で詳しく伝えるほか、「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。午前11時55分から『ひるおび』で、「正殿の儀」の中継が始まると、牧島博子、吉野健一（宮廷文化研究家）などが「即位礼／共通・報道情報」を伝え、文化的・歴史的な背景を解説した。午後1時55分から『ごごすま』で石井亮次（CBC・アナウンサー）が司会をして、竹田恒泰（作家）、田中ウルヴェ（元・五輪選手）、石塚元章（特別解説委員）、菊池幸夫（事務所弁護士）、深澤真紀（獨協大学特任教授）、岡田圭右（タレント）などが発言しながら「即位礼／共通・報道情報」、皇居から赤坂御所に戻る両陛下の「皇族車列・中継」を伝えた。午後3時49分から『Nスタ』で、井上貴博、ホラン千秋が司会をして、与良正男（毎日新聞専門編集委員）、牧島博子などが「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。苅田吉夫（元宮内庁式部官長）が解説し、東儀秀樹（雅楽師）が饗宴の儀の説明をした。午後11時から『news23』で小川彩花（キャスター）が、正殿の儀に関する基本情報を伝えた。皇居前広場からの中継も入れつつ、禅野靖司（学習院学友）、星浩（コメンテーター、元朝日新聞）がコメントした。

vi　テレビ東京（7チャンネル）

午後0時50分、特設スタジオと皇居をつないでの特集番組を放送した。司会のアナウンサーのほか、藤本頼生（國學院大學准教授）などが解説。「正殿の儀」の中継映像、「即位礼／共通・報道情報」を伝え午後1時29分に終了した。

vii　フジテレビ（8チャンネル）

午前5時25分から『めざましテレビ』で、通常ニュースのほか「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。赤坂御所から皇居へ移動する、両陛下の車列をそれぞれ沿道などから中継し橋本解説委員（皇室担当）が解説した。午前11時30分から『NEWS FNN』で「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。宮城県丸森長からの中継で台風被害の様子を伝えた。午前11時55分から16時50分までの約5時間にわたり、特番『バイキング×グッディ！× FNN Live News 即位の礼 SP』で「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」を伝え

た。出演者は『バイキング』が坂上忍、『直撃LIVEグッディ！』がキャスターの安藤優子、高橋克実（俳優）、報道番組『Live News』は、キャスターが加藤綾子、スペシャルリポーターに上白石萌音（俳優）が出演し「十二単」に関する取材報告をした。『バイキング』では、仙石宗久（有職文化研究所代表）、竹元正美（元東宮侍従）が解説し「天皇即位礼正殿の儀」を中継した。『直撃LIVEグッディ！』では、高橋茂雄（サバンナ）、北村晴男（弁護士）、青木淳子（大東文化大学）、橋本寿史（フジテレビ解説委員）などがゲストとして発言した。『Live News』では、皇居から赤坂御所に戻る両陛下の「皇族車列・中継」、乃万暢敏（陛下の同級生）などが発言した。午後3時50分からは『Live News』で、風間晋（解説委員）、パトリック・ハーラン（タレント）、加藤綾子（アナウンサー）、佐々木恭子（アナウンサー）などが司会進行し、宮﨑千歳（宮内庁担当）などが「即位礼／共通・報道情報」を伝えた。中野浩一（競輪選手）が饗宴の儀についてコメントした。午後5時53分から『Live News』を継続し中継などを交えて、「即位礼／共通・報道情報」を午後7時まで継続的に伝え、饗宴の儀についての説明をした。

viii　考察

◆放送時間

「即位礼・関連番組」の総放送時間と「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」「企画」などに費やした時間は、NHKが12時間28分の内11時間24分、日本テレビが9時間11分の内5時間44分、テレビ朝日が12時間33分の内8時間27分、TBSが15時間56分の内11時間59分、テレビ東京が1時間9分の内1時間9分、フジテレビが9時間58分の内7時間29分であり総計では61時間15分の内46時間12分であった。調査対象とした41の「即位礼・関連番組」のうち27で50%を越える割合で「即位礼・関連情報」を報道していたことが明らかになった。また、地上放送局の一日の放送時間を4時から24時までの20時間と考えると、放送時間が短いテレビ東京を除く5つの放送局の総計100時間の放送時間のおよそ6割の時間を「即位礼・関連番組」で編成したことになる。この日が祝日だと考えれば妥当とも言えるしバランスを欠いて多すぎるとも言え、報道の自由のもとにおける各局の編成判断であり客観的に善し悪しは言えないと考える。

◆放送内容の多様性

NHKは一日を通じて「即位礼／共通・報道情報」「皇族車列・中継」に特化した編成、報道内容で、台風19号の被害状況はL字を中心にきめ細かく伝える一方、政治、社会、経済、国際、文化、スポーツに関するニュースの項目数が極めて少なかった。民放は早朝の時間帯で、政治、社会、経済、文化、スポーツ、エンターテインメント・芸能に関する日本国内と世界に関する情報を、平日並みに満遍なく伝えた。「即位礼／共通・報道情報」「皇族・車列中継」に関しては、NHK、民放各局の放送内容にほとんど差はなく多様性に欠けたと指摘することは可能であるものの、正確な報道に徹したとも言える。

◆気象情報、台風情報

NHK は、午前と午後、「即位礼正殿の儀」を中継している時間帯を除き、L 字で生活情報や気象情報を伝えた。民放各局は、それぞれの番組で適宜、台風 19 号による被害、台風 20 号の北上についての気象報道を伝えた。TBS『ひるおび』で、あきる野市の被災現場の様子が、現場からの中継を交えて「秋川、バイクのヘルメットにつけたカメラの映像、濁流する川、台風当日 12 日の映像、牛沼、秋川下流、台風 19 号、1 月の写真、上流の降水量は 72mm、航空写真、気象情報、福岡県朝倉市で雨が断続的、家屋崩壊、護岸崩落、川の流れを変えるための工事が続いている、復旧作業」などと、即位礼の中継の直前まで、長時間にわたり丁寧に伝えられていたのが印象的であった。東日本大震災以降、意識が高まった「命を守る報道」を、どの地上放送局も心がけていることが様々な工夫から感じられた。

◆儀式に関する情報提供

NHK、民放各局ともに、22 日当日の「賢所大前の儀」「即位礼正殿の儀」「饗宴の儀」に関する情報は、宮内庁、内閣府からの情報に基づいたナレーションと識者、研究者の言葉で構成され、正確さが担保されていた。天皇のお言葉はすべて一言一句正確に天皇のおことばのタイミングに合わせて表示を続けたことから、事前に報道各社に配布されていたことが推測される。総理大臣の寿詞も同様だと推測される。

◆敬語

NHK、民放各局のアナウンサーやゲストの言葉遣いに二重敬語、過剰な尊敬語などはなく適正な表現がなされていた。

◆出演者

「専門家・識者」を大きく区分けすると、儀式に関して専門的知識を有する者、歴史学者、天皇制研究者など、「即位礼正殿の儀」に関して専門的な知識をもつ者と、普段からスタジオにゲストとして登場している様々な分野の専門家となる。前者が専門性を生かして、儀式の歴史や文化的背景、伝統、象徴天皇制の課題などについて丁寧かつ正確で分かりやすい解説をしていた一方で、後者のほとんどは、「視聴者代表・タレント」と、ほぼ同じレベルの祝意を前面にだしたコメント内容が多かった。「記者・レポーター」は、NHK は報道局、総理官邸、宮内庁、警視庁などの記者クラブに所属する記者、自局のアナウンサーの報告が中心で、民放は同様の記者やアナウンサーとフリーのリポーターが混在していたが、正確で分かりやすい丁寧な報告がほとんどであった。一方で、独自取材による内容は極めて少なく、メディア関係者であれば誰もが入手可能な情報を伝えるに留まっていた。

◆議題設定機能、世論認知機能（表 2 参照）

※象徴天皇制

「企画」はほぼ無かった。背景には平成 30 年間に国民の意識が大きく変わったことがあると考えられる。即位礼正殿の儀を前に、皇室に対する関心や皇位継承のあり方などについての意識を探るために実施した電話調査、文研［2020］『新時代の皇室観～「皇室に関

する意識調査」から』によると、今の皇室について関心がある人、親しみを感じている人、皇室と国民の距離が近くなったと感じている人はいずれも 7 割程度で、国民の多くは皇室に対して関心や親しみを持っている、とされている。また、女性天皇、女系天皇を認めることについても、それぞれ 7 割の人が賛成している一方で、女系天皇の意味を知っている人は 4 割で、皇室制度を改める必要があるという人も半数程度にとどまっていることを明らかにした上で、皇室への肯定的な国民感情の理由に両陛下の被災地訪問など被災者に寄り添う姿勢への国民の共感の拡がりがあったのではないかと分析されている。地上放送局の報道姿勢は、天皇の代替わりに際して国民がどのような象徴天皇制を望むのか、という視点からではなく、天皇皇后両陛下が上皇上皇后両陛下の姿勢を引き継ごうとしていることに重心を置いて伝え、どのような象徴天皇像を描こうとしているのかについては、推測する姿勢に終始したと筆者は感じた。

「国民の知る権利への奉仕（議題設定機能、世論認知機能）」を果たしたかについては、客観指標はないことから、主観的な表現にならざるを得ないが「物足りない」と感じた。事実上その役割を担ったのは、NHK、テレビ朝日に出演した河西秀哉（名古屋大学准教授）であった。丁寧で分かりやすく、数々の著作の中で論じている自身の考えを的確に表現し研究者としての問題提起を率直に伝えていた。印象的であったのは、NHK が「賢所大前の儀」を中継中にアナウンサーが象徴天皇制についての質問をした際のことである。スタジオの河西氏が回答中に賢所に皇后陛下が入ってくる気配があり映像が中継映像に切り替わるなか、河西氏の言葉が音声で流れ話し終わるとそのまま次の話題に移ったことであった。製作者の「話題として出す必要はあるが、深めるつもりはない」という意識を垣間見た気がした。

＊政教分離

NHK も民放各局も、国事行為と宗教儀礼の区別、儀式の経費などの面から「政教分離」に関して、解説委員や識者の話の中で断片的にでてきたが、深める意図は感じなかった。また、11 月におこなわれる大嘗祭についても、ほとんど触れられなかった。

＊儀式の経費

儀式の簡素化についてのコメントは多くの番組でなされたが具体的な経費について述べるコメントはなかった。事前・事後の報道によると、160 億円を超える予算がくまれ、前回の約 3 割増しとなった。前回は客席として仮設ステージをつくったが、今回は、ステージをつくらない、招待客を減らす、大名目祭も敷地面積を一回り小さくして屋根をかやぶきとすべきところを板葺きにするなど建材も見直すなど簡素化の努力はしたとされるが、人件費、資材費が高騰した結果、大嘗宮の総工費は前回 15 億円が 19 億円にふくれあがったという。外国賓客の受け入れ費用も 5 倍になった。冷戦崩壊、ソ連の崩壊により、国の数が増えたこともあり、セキュリティにかけた費用も膨大なものであったという。こうした点に関して、事実の説明はあったものの、「国民の知る権利への奉仕（議題設定機能、世論認知機能）」に応えようする「企画」はなかった。

＊皇族の公務負担

スタジオでのトーク、解説者によるコメントのなかに五月雨式には出てきたが、NHK にも民放各局にも「企画」は無かった。

＊皇族の減少

「天皇即位礼正殿の儀」で皇族の並び方が前回と比較して変化した旨を伝える際、NHK も民放各局も男性皇族の減少について話題としては伝えたが、その歴史や背景、対策などについて「議題設定機能、世論認知機能」を果たそうとしていると感じる「企画」は無かった。NHK は午後 4 時から NHK スペシャル『天皇と日本人』を再放送した。平成の次の時代になると、皇位継承者は秋篠宮さま、悠仁さま、常陸宮さまの男性皇族３名となること、男系男子に限られている皇位の継承をどう考えていけばよいか。現憲法の下で２度に渡って行われた政府の議論を、発掘資料やスクープ証言を交えて詳細に検証し、「皇位継承」を巡って何が話し合われたのか、新しい時代、主権者である私たちはこの問題とどう向き合えば良いのか、　などを伝える内容であり、「議題設定機能、世論認知機能」を十分に果たす内容であった。

＊女性天皇・宮家の創設

「企画」は無かった。NHK の番組で記者が「政府は安定的な皇位継承を確保するための諸課題や女性宮家創設等について速やかに検討をおこない、その結果を国会に報告する」と解説した。民放各局では解説委員やゲストがコメントすることはあったが、この議題を深める場面は無かった。前述した NHK スペシャル『天皇と日本人』の中で、これまでの議論に関して丁寧な説明があった。

＊恩赦

NHK 番組のスタジオでの記者による解説が行われた。テレビ朝日『報道ステーション』、TBS『グッとラック !』で、恩赦の実施について丁寧な説明が行われ、議題設定機能、世論認知機能を果たそうとする製作者の意識を明確に感じた。

5　まとめ

本論考は、筆者がテレビ番組製作の経験をもつ実務家教員であり、放送メディアは、日本国憲法第 21 条が保障する表現の自由のもと、放送法第 4 条 1 項（番組編集準則）で定められた「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に則り、国民の知る権利に応え「議題設定機能・世論認知機能」を果たすべきだと考える立場から執筆されている。

アメリカのコミュニケーション研究の先駆者ウィルバー・シュラム（1907-1987）は、マスメディアの機能を「教え、楽しませる」「知らせ、面白がらせる」としつつ「次にとるべき社会的行動に対して、世論を一致させる」ことの重要性について言及している。この考え方は「権力監視」「議題設定機能」「情報蓄積・社会教育」など呼称の違いや、それ

ぞれの機能の重みについての考えが異なることはあっても、メディアと社会の双方に概ね了解されてきた。近年、ソーシャルメディアなどで個人が意見を表明することが容易になり、フェイクニュースなどにより民主主義社会の維持継続への様々な弊害が生じていることから、取材する権能と正確な情報を伝える職能を保持する放送メディアが持つ「議題設定・世論認知」の機能がより強く求められている。

象徴天皇制が国民間で承認されていく過程とメディアの影響について論じた嚆矢となったのが松下圭一［1959］『大衆天皇制論』（中央公論 37 巻 4 号）とされる。しかし､その後､象徴天皇制研究と放送メディア研究の両者を緊密につなぐ研究は管見の限り見当たらない。メディア当事者による記録としては、日本放送協会［2001］『20 世紀放送史』、日本テレビ報道局天皇取材班［1989］『昭和最後の日　テレビ報道は何を伝えたか』などがあり、昭和天皇の大喪の礼（1989）の際には儀式の中継とお悔やみ、バラエティ番組の放送中止や天皇体調に関する過剰な報道、CM 抜きの放送など過度の自粛、横並び報道などが批判されたこと、など当時の状況が記録されている。近年では、有馬明恵［2020］『ワークショップ 2　平成から令和へ，その時，テレビは何を伝えたのか 新元号発表日・退位の日・即位の日の報道特集番組の内容分析から』があり、本研究の参考とした。

10 月 22 日、地上放送局は総じて、平成の時代を通じて高まった皇室への尊敬の念、国民の祝意の気持ちに立脚する形で、賢所大前の儀、天皇即位礼正殿の儀、饗宴の儀の様子を中継で伝え、その責任を果たした。放送メディアの特性である解説の機能を有効につかい分かりやすく親しみやすく、儀式の伝統、文化、歴史、背景などを伝えることでも、その役目を果たした。一方で、象徴天皇制への言及、課題などへの言及、女性皇族の継承問題、皇族減少の課題、皇位の課題、皇族の業務負荷の問題、儀式にかかる経費の問題、国事行為と宮中祭祀の整理、儀式のあり方、経費について、公務の負担の増大、皇族の減少、雅子さまの適応障害、男性皇族の減少、皇室存続についての議論、女性宮家創設問題などへの議題提起・問題提起が、国民と共に祝意を表す日にされるべきか賛否がわかれると思うが、ほとんど無かったと言える。今後も続く天皇・皇室に関連する行事の際に、視聴者の期待に応えつつ議題提起・問題提起の機能を果たすことができるのか、放送メディアは問われているとあらためて感じた。

最後になるが、今回の調査方法の限界と将来展望について記述する。多チャンネルの同時録画機能を手軽に使えるようになったことから放送メディア研究の可能性は広がったが、スマートフォンの普及、インターネット接続環境の進化が動画やニュースをいつでもどこでも消費できる環境をもたらしたため、放送のみの調査は一面的であるという事実は否めない。今後は、放送局のネット上で web ページ、SNS での情報発信調査、テキストマイニングなどの技法を取り入れていく必要があることは間違いない。

参考文献・資料

首相官邸 HP［平成 17 年］『皇室典範に関する有識者会議　報告書』

河西秀哉［2010］『「象徴天皇」の戦後史』講談社、［2016］『明仁天皇と戦後日本』洋泉社
NHK 放送文化研究所［2020］『新時代の皇室観 ～「皇室に関する意識調査から」～』
日本放送協会［2001］『20 世紀放送史』NHK 出版
日本テレビ報道局天皇取材班［2015］『昭和最後の日　テレビ報道は何を伝えたか』新潮社
Schramm,Wilbur［1957］Responsibility in Mass Communication, Harper & Brothers.（崎山正毅訳［1959］『マス・コミュニケーションと社会的責任』NHK 出版）
有馬 明恵［2020］『ワークショップ 2　平成から令和へ，その時，テレビは何を伝えたのか　新元号発表日・退位の日・即位の日の報道特集番組の内容分析から』マス・コミュニケーション研究 97 巻 p. 203-204